第55回全日本大学個人ボウリング選手権

2月19~21日／品川プリンスホテルBC

吉原正明選手がハイスコアバトルを制す 女子は戸塚眞由選手が有終のVで2連覇

◀優勝の吉原選手（左）と戸塚選手

第55回全日本大学個人ボウリング選手権大会が、2月19日から21日までの3日間、東京・品川プリンスホテルボウリングセンターを会場に、男子171、女子39選手が参加して熱戦が展開されたが、男子は青森中央学院大学2年生の吉原正明選手が、大会新記録で初優勝を飾れば、女子は同志社大学4年生の戸塚眞由選手が、昨年に続く連覇を達成した。（主催：(公財)全日本ボウリング協会）

▲「チャンスがあっただけに悔しいけど、2位は過去最高の成績」と佐藤選手

▲「ハイスコアの打ち合いは苦手だけど、意外についていけた」と久冨木選手

男子 壮絶な打ち合い

2連覇中の大本命・斉藤翔選手（同志社大）が予選落ちするという波乱の展開のなか、吉原選手が安定感抜群のボウリングで、予選（12G）を2839の1位でクリアすると、準決勝（6G）も1445を打ってガッチリ首位をキープした。しかし34ピン差の2位に佐藤宇宙選手（東海学園大）がつけ、さらに43ピン差で久冨木広選手（志學館大）が続いていた。

決勝（3G）の1G目、吉原、佐藤の両選手が1フレから激しいストライク合戦を展開した。吉原選手が9フレで切れて278に対し、佐藤選手は最後の1投が8本でパーフェクトを逃したが298。その差を14ピンに詰めた。吉原選手は「ちょっと焦ったけど、リズムを崩さないように心がけた」2G目は、セミパーフェクトの279。「吉原君のパンチアウトに対し、自分は10フレ1投目に持ってこれなかったのが痛かった」と佐藤選手。256で、差が37ピンに開いた。それで気落ちもあったのか、最終G伸ばせなかった佐藤選手を尻目に、257を打った吉原選手は、決勝で814、トータルピンは大会記録を更新する5098と、記録づくめの快勝で、大学個人ナンバー1の座に就いた。

◀女子選手権者の戸塚選手「準決勝はなかなか⑦ピンが飛ばなくて、そのカバーも怪しかった。決勝はいかに⑦ピンを飛ばすかがカギだと思っていたけど、うまく飛んでくれた。連覇は簡単ではないと思っていたので、達成できて本当にうれしい」

佐藤選手は最後に突き放されて5003で2位、3位で進出の久冨木選手は「相手次第でワンチャンスあるかなと思ったけど、その相手が打ちすぎです」と4932で3位のままだった。

◀男子選手権者の吉原選手「決勝はレーン移動をしてもあまり変化を感じず、ほとんどラインを変えずに投げられた。800シリーズや大会新記録の可能性があることはわかっていたけど、それは意識しないで、いつもどおりの投球をすることに集中した」

女子 戸塚選手が会心V

女子で予選をリードしたのは中国短期大2年の三原唯選手。「昨年は実習があって出られなかったので、これが最初で最後の大学個人。会場の品川で投げるのも初めてだけど、投げやすく感じた」と、5G目の185以外は200アップの安定した内容で、2695の1位で予選通過を果たした。そしてディフェンディングチャンピオンの戸塚選手が16ピン差の2位と、好位置につけていた。準決勝では1350を打った戸塚選手が首位を奪い、戸塚選手を上回る1379を打った矢野彩花選手（東京経済大）が63ピン差の2位に上がり、三原選手は戸塚選手から66ピン差の3位に後退した。

上位10選手が進出した決勝は1G目、三原選手が262を打ったが、戸塚選手は「隣のボックスの子がストライクを続けていたので、これはやばいと集中した」と、三原選手を上回る268を叩く。一方214にまとめたものの「1G目に離されて厳しくなった」と矢野選手。その後も236、244と盤石のボウリングの戸塚選手が、トータルを4777まで伸ばし、最終学年を2連覇で締めくくった。

激しかったのは2位争い。矢野選手と三原選手が最終Gを投げ終えて4622の同ピンで並んだが、シリーズローハイの差が少なかった三原選手が2位、矢野選手が3位となった。

▲「大会をとおしてラッキーも多かったし、ボールが活躍してくれた」と三原選手

▲「ローハイの差で2位は、すごく悔しい。今1年生なので、あと3年のうちに…」と矢野選手

◀男子入賞者、左から優勝・吉原、2位・佐藤、3位・久冨木、4位・寺尾、5位・西島本、6位・森永の各選手

◀女子入賞者、左から優勝・戸塚、2位・三原、3位・矢野、4位・鈴木、5位・万代、6位・渡辺の各選手